

目標実現へ 向けた現状 分析	平成 24 年度概算要求では、「第 3 次 5 か年計画」の整備目標約 550 万㎡に対し、以下のとおり、計 73 万㎡相当の施設整備を要求しており、これによる「第 3 次 5 か年計画」の当初 2 年分（平成 23・24 年度分）の整備量は、計 125 万㎡（5 年間の目標全体に対する進捗率：23%）と見込まれている（注）。 （1）老朽改善整備 ①目標（第 3 次 5 か年計画）の考え方 国立大学法人等の施設の全保有面積（約 2,600 万㎡）のうち、経年 25 年以上の老朽施設で改善を要するものは、約 4 割（約 1,000 万㎡）を占めている（平成 22 年度末現在）。 「第 3 次 5 か年計画」では、今後、毎年当たり約 80 万㎡の老朽改善整備を着実に実施し（計画期間中（平成 27 年度まで）の目標は計約 400 万㎡）、15 年程度をかけて、特に老朽化が著しい施設（経年 30 年以上）を解消し、安定的な維持管理・更新が可能な定常状態に移行することを基本的な考え方としている。 また、施設（耐震性の劣る、Is 値 0.7 未満の施設）の耐震化については、計画期間中（平成 27 年度まで）に完了させ、特に耐震性の劣る施設（Is 値 0.4 以下の施設）については、原則として平成 24 年度までに完了させることとしている。 ②進捗状況 これに対し、平成 24 年度概算要求では、52 万㎡相当の施設整備を要求しており、これによる「第 3 次 5 か年計画」当初 2 年分の整備量は、計 87 万㎡（進捗率：22%）（注）。 また、耐震化については、計画どおり Is 値 0.4 以下の施設については平成 24 年度中の原則完了が見込まれ、耐震化率（Is 値 0.7 以下の施設の割合）も、第 2 次 5 か年計画終了時（平成 22 年度末）の 88%から、平成 24 年度末には 91%に改善が見込まれる。 （2）狭隘解消整備 ①目標（第 3 次 5 か年計画）の考え方 卓越した教育研究拠点の形成や若手研究者の増加など、教育研究活動の高度化・多様化に伴い必要となる新たなスペースについては、「第 3 次 5 か年計画」では、施設マネジメントによる既存スペースの有効活用等を前提とした上で、約 70 万㎡の狭隘解消整備を行うこととしている。 ②進捗状況 これに対し、平成 24 年度概算要求では、7 万㎡相当の施設整備を要求しており、これによる「第 3 次 5 か年計画」当初 2 年分の整備量は、計 13 万㎡（進捗率：16%）（注）。 （3）附属病院の再生 ①目標（第 3 次 5 か年計画）の考え方 大学附属病院の再生については、先端医療・地域医療に対応した計画的な整備を推進することとしており、「第 3 次 5 か年計画」では、約 80 万㎡の附属病院の再生整備を行うこととしている。 ②進捗状況 これに対し、平成 24 年度概算要求では、約 14 万㎡相当の施設整備を要求しており、これによる「第 3 次 5 か年計画」当初 2 年分の整備量は、計 26 万㎡（進捗率：36%）（注）。 （注）上記の各進捗状況においては、各法人の多様な財源による施設整備分を除く。 なお、第 2 次 5 か年計画（平成 18 年度～22 年度）における多様な財源による施設整備実績は、以下のとおり。 老朽改善整備：30 万㎡、狭隘解消整備：56 万㎡、附属病院の再生：13 万㎡（計 99 万㎡）
-------------------------------	--